

場づくりについて考える

トークシリーズ

05

茨木市福祉文化会館「ライフライン」の事例から

2024年10月以降、断続的に展覧会が行われてきた茨木市福祉文化会館。

2025年秋に開催された現代アートのグループ展「ライフライン」では、キュレーターの福元崇志（国立国際美術館）と美術作家8組9名の手によって、一旦役割を終えた公共施設の全フロアが活用され、新たな表現が息づく創造の場へと変貌を遂げました。

今回のトークでは、この「ライフライン」を振り返りながら、学芸員が美術館の外へと踏み出し活動する意義について掘り下げ、美術館やギャラリーといった既成の展示空間とは異なる実験の場、いわば“空き地”のような場が持つ可能性について考えます。

ゲスト:福元 崇志(国立国際美術館 主任研究員)

聞き手:雨森 信(HUB-IBARAKI ART PROJECTアドバイザー)

日 時:2026年3月22日(日) 13:30-15:00

会 場:茨木市市民総合センター[クリエイトセンター]1階 喫茶・食堂スペース

茨木市駅前四丁目6番16号

参加費:無料 ※要申込

定 員:先着 30名

下記の申込フォームより
お申し込みください。

◀ 申込フォーム



【主催 / 問合せ】
公益財団法人茨木市文化振興財団
TEL:072-625-3055(10:00~17:00)

<https://hub-ibaraki-art.com/>

